

第 8 回庁舎等基本計画策定審議会議事録

日時：平成 24 年 11 月 8 日 14：00 から

場所：伊予市市民会館 4 階第 6 会議室

参加者：策定審議会委員 17 人、事務局 9 人、委託業者 3 人、傍聴者 10 人

1 開会

2 議事

(1) 第 7 回庁舎等基本計画策定審議会議事録について

(会長) だいぶ寒くなった。学生は風邪をひきやすいのかマスク姿が多いのだが、皆さんは元気そうで何よりである。今日もワークショップで勉強しながら共通認識を深め、問題を整理していきたい。議事の 1 点目、前回の議事録を事前配布している。ワークショップで出た意見を整理したものが中心であるが、中身についてよろしいだろうか。

(委員) 前回の審議会の質問に対する回答を頂いた。たくさんの質問をしてしまったのだが、きちんと回答いただき感謝する。この回答集がとても貴重な資料に思われ、図書館の利用状況の現実を踏まえると、そこで何が行われ、誰のために何をしていくべきかというのがはっきり見えた気がする。我々も一生に一度あるかないかの施設建設に関わらせていただいているので、図書館がどうあるべきか、冊数を増やすだけでなく、選書や蔵書の構成が大事であるとか、離れている双海や中山がどう関係するのかとか、10 年 20 年後に子どもたちが当たり前前に図書館に来て、いろんなことが解決できるという場になるための大事なヒントを頂いた気がする。この内容に真摯に向かい合い、新しい図書館を考えると良いと思った。

(会長) はい、事務局の回答に対するお礼と、丁寧にがんばって書いてきたということであった。それでは、議事録は市のホームページで公表したいと思う。事務局お願いします。

(2) 配布資料の説明について

(会長) それでは配布資料の説明について、石本建築事務所からお願いします。

(業者 1) 第 3 回目のワークショップであり、今日から班編成を変えさせていただいた。また活発なご意見、ご協力をお願いします。今日からは 2 回にわたり、ホールに関するワークショップを行う。実は強力な助っ人を呼んでおり、今回からホールのコンサルタントという形で松山市在住の徳永

高志さんを紹介する。後の資料にも出てくるのだが、徳永さんは長野県茅野市市民館のホール運営に関するコアアドバイザーをされている。ホールの運営について、詳しくご説明いただければと思う。

(徳永氏) 大半の方は初めてお目にかかる、徳永である。現在松山市在住であり、月の半分くらい松山にいる。1割は長野県におり、ほかにも兵庫県南あわじ市の淡路人形座（人形浄瑠璃の専門劇場）や内子町の内子座のお手伝いをしている。内子座では4年後に控えた100周年の実行委員会の委員長、また松山市坂の上の雲フィールドミュージアムサポート委員会（市民活動や文化活動の助成金を出す委員会）の委員長も務めている。ホールの本格的なコンサルタントは初めてである。皆さんと一緒にこの街で素敵な文化施設を造りたいと考えている。私は元々古い芝居小屋の研究者であり、この辺りにあった寿楽座に関心を持っていたところ、街の方にお誘いいただいて、話をさせていただいたり、一緒に街歩きをさせていただいたりしたこともある。何とぞよろしく願います。

(業者 2) 今日の本題に入る。配布資料の「グループワークで出た意見(2012/10/25)」は、前回1班から3班まで、それから傍聴の方々からたくさん出していただいた意見をまとめたものである。これらは、たたき台として出していた「建設検討報告書」をより良いものにしていくヒントとして、大事に扱っていきたいと思う。時間の関係上詳細は紹介できないので、各自御一読いただければと思う。

まず文化ホールについて知っていただくということで、「伊予市近隣のホールの分布（広域での機能分担）」について説明する。これは、伊予市を中心に5km、10km、15km圏内にどのようなホールが分布しているかを示した地図である。伊予市は交通（JR、伊予鉄）があり、松山市との交通の便が良いため、松山市までを含めた広域で捉えている。5km圏内にはウェルピア伊予、隣町の松前町総合文化センターがある。10kmまでいくと、砥部町文化会館、愛媛県生涯学習センターといったもの、さらに15kmとなると、なかやま農業総合センター、松山市民会館、愛媛県民文化会館がある位置関係にある。次に、それぞれのホールの客席数などを示す。松前町総合文化会館696席、砥部町文化会館804席...現在の伊予市市民会館606席、ウェルピア伊予230席となっている。最初に市長から約300席程度の文化ホールを考えるようにとコメントがあった。その根拠として、5km圏、10km圏、15km圏にあるホールを座席数に応じて分布状況を示してみると、300～500席辺りのホールがぽっかり空白地域になっている。この空白地域をカバーするホールを造ることで、よりこの地域で機能分担して文化ホールの特色を出せるのではないかと

いう仮に想定した席数である。全く根拠のない 300 ではなく、近隣のホールの分布状況を見た上で空白となっている規模、ここを抑えることで特長を出そうと考えている。こういう松山まで広がった広域でとらえていくことで、伊予市の文化ホールを捉えるヒントにはなるのではないかと思う。

ホールは規模や座席数など、全く何もない状況では考えにくいこともあろうかと思うので、事例紹介をした後にグループワークに移る方法を取りたいと思う。

(業者 1) まずは徳島県阿南市(旧羽ノ浦町)の羽ノ浦コスモホール。我々の設計であり、もう 15 年になる。先進事例というわけではないのだが、座席数と図書館との複合施設ということで、今回の例に近い。ここは 550 席のホールが 1 つであり、この規模のホールには珍しいサイドバルコニー席を設けている。催しがあるとここから埋まっていくということも聞いている。それからホール後方に簡易な残響可変装置があり、約 0.3~0.4 秒の残響時間を調整できる。舞台はそれほど広くなく、やや昔のホールである。多目的ホールではあるのだが、音響的に苦労したホールである。1 階には図書館があり、その上に先ほどのホールが乗っかっている。図書館とホールというのは文化施設としての共通性はあるのだが、音の点では非常に問題があり、ここも遮音に苦労したホールとなっている。

次に広島県呉市の広市民センター、これも私どもの設計である。ここは可動式座席により平土間になり、ハードな運動はできないけれど、例えばダンスなどができる。舞台は非常に小さく、天井も比較的低い。ここはロールバック方式の移動観覧席があり、その前にパイプ椅子を並べると 700 人くらい入る。展示や講演会、ダンスと非常に多目的に使われているホールである。

松山市三番町にある愛媛県医師会館は最近できた。医師会の建物であるが、一番上にホールがある。かなりの急勾配に 350 の固定席がある。舞台は非常に狭いのだが、ピアノはスタインウェイを備えている。ステージの後ろは開けられるようになっており、松山城が見える。

ほかの設計者の仕事も紹介する。岐阜県可児市の文化創造センター。小ホールは 311 席である。ここは 1,000 席の大ホールや様々なスタジオ、工房などいろんなものがあり、市の文化の中心地を目指している。小ホールの中央の椅子は可変であり、スライドするステージの仮設もできる。

大分県日田市にあるパトリア日田、可児市の文化創造センターと同じ設計者であり、基本的な構造は一緒である。NHK ののど自慢がやれるのが 1,000 席なので、意識したのかどうかは分からないが大ホールが 1,000

席、それと小ホールが 351 席。小ホールの特長として、芝居小屋のような和の雰囲気漂わせたホールになっている。広市民センターと同じく移動観覧席を採用しており、椅子を収納すると平土間になるタイプのホールである。次の茅野市民館は徳永さんから説明いただく。

(徳永氏) 長野県茅野市は諏訪湖の南にあり、人口 56,000 人、八ヶ岳のふもとに蓼科という大別荘地を抱えており、日本のスイスと言われている。またエプソンの本社があるなど、観光と精密機械の地方都市である。茅野市民館は、中庭が広い芝生になっていて、そこでいろんなイベントもできる。ガラス張りの建物が図書館（分館ではなく分室）であり、1 時間に 1 本 12 両編成の特急が出ている JR 中央線に直結している。高校生が自習したり、芸術文化関係の図書を中心に集めたりしている。図書館からスロープを介して下っていくと共通スペースに出る。その上に 760 席のメインホールと 300 席の音楽コンサートホールがある。メインホールは市民のワークショップにより 800 席ができたのだが、傾斜の緩さによる改修を行い、760 席となっている。メインホールは完全な平土間になる。先ほど石本建築事務所から説明があったとおり、大体ロールバック方式を使っているが、ここはワゴンになっている。1 ワゴン 100 席ほど乗り、エアーで 5mm~1cm ホバークラフトのように浮き上がる。片手でも動かせるほど、比較的簡単に座席の収納ができる。先ほど残響時間という専門的な話があった。一般的にコンサートホールは残響時間が長く、演劇や講演会は短い。私の話も響くと聞きづらくなるので、残響時間は短い方が良い。音響可変装置というのは、その残響時間をコントロールできるもので、この施設にも付いている。大ホールの舞台は、後ろの枠が取っ払えるようになっており、その後ろにも広い舞台がある。専門的な話になるが、主舞台の広さよりもたいていバックヤードが広く取られる。バックヤードが 2 倍のホールは 3 面舞台になる。最近の新しいホールは、客席の 2/3 くらいの広さの舞台を持ち、その舞台が別に 2 面あるという、客席よりも後ろが広いホールの方が使いやすいと言われている。

先進事例の話をしたのだが、私は元々歴史の者なので「劇場・音楽堂を構想しよう」の話をさせていただきたい。劇場・音楽堂と聞こえは変だが、“劇場・音楽堂等の活性化に関する法律”というホールに関する初めての法律が今年できた。劇場とだけ言ってしまうと音楽をされている人から猛烈な反発があり、音楽堂 (=コンサートホール) という日本語になっている。図書館や公民館、博物館 (美術館を含む。) に関しては今まで法律があった。だから図書館に司書を置きなさい、公民館に社会教育

主事を置きなさい、博物館に学芸員を置きなさいとなっているのだが、今回の法律では、その 3 つの大きな文化施設の法律と違い、基準は設けていない。というのも日本にはものすごくたくさんホールがあり、公文協という組織に加盟している所だけでも千数百ある。先ほどのホール分布で中山農業総合センターというのがあったが、ここは公文協に入っていない。そういうものを含めると 3 千数百という文化ホールがあるようだ。それら全部に義務化した法律を作ると大混乱になるので、イベントや人材育成をがんばってねという緩い法律になっている。

それでその法律の対象となる公立文化施設は、高度経済成長期とバブル経済期に急増した。愛媛県民文化会館がサントリーホールと同じ 1986 年、2 年後に松山市コミュニティセンターキャメリアホールがオープンした。現在はその改修時期に来ているけれども、多額の費用が必要なために閉館する事例も増えている。今東京で騒ぎになっているのは、20 数年前にできた青山劇場という老舗のホールであり、閉館の方針が打ち出されて今反対運動が起きている。愛媛県民文化会館も外は立派だが、中はぼろぼろである。実は 20 年から 25 年経つと、ホールは吊りものが傷んできたり空調が傷んできたりと大改修をしないとイケない。大改修はできた当時の額の 2 割から 3 割かかると言われている。県民文化会館と同じ時期に建ったサントリーホールは 3 年ほど前に半年ホールを閉めて大改修した。約 350 億円かけて造ったのだが、改修に 100 億円かかったそうである。また 450 億円かけて造った東京芸術劇場は 110 億円かかった。今はその時期が来ていて大変である。で、もっぱら平成 26 年ショックが言われていて、今のスケジュールでいけば消費税が上がる。消費税の上った分は地方に還元すると言いながら、実際は地方交付税が減る。合併特例債もほぼこの頃に終わるので、それまでに文化施設は何とかしたいけれども、できないと大変だという厳しい状況になっている。

もう少し歴史を振り返っておく。私が伊予市と関わるようになったのは、内子座の後にできた、内子座よりひと回り大きい立派な芝居小屋「寿楽座」があったという話を聞きに来たときからである。当時は地方においても芝居小屋が急増していた。内子座は自主的な経営をしており、キャッチフレーズは当時から「娯楽の殿堂」だそう。たまたま内子座 100 周年に向けて、紙とほこりにまみれながら古い資料を読んでいると、寿楽座と交流していた話が出てきてすごく面白い。彼らはすごく楽しく立派にやる一方で、常に倒産の危機があったと戦前の資料にある。内子は一番多かった時に 3 つ芝居小屋があったそうだが、大洲に引き取られるなど 2 つは閉鎖した。一方 19 世紀末から、地域のお金持ちの寄付等によ

り公会堂が造られた。今もある中ノ島公会堂や日比谷公会堂はものすごいお金持ちが、地元で使ってくれとポンとお金を出した。函館の公会堂もそうである。現存していない高松の公会堂は、日清戦争に勝ったときに地域から寄付を集めて造っている。日比谷公会堂は昭和4年に造った当時、東京府から歌舞音曲を考慮してはならないと言われたそう。しかし設計者の佐藤さんは、密かに客席に傾斜を付け、音響装置を入れ、舞台袖を造った。それがその後50年間にわたって名コンサートホールとして使われた。戦後の公立文化施設は、公会堂の系譜を踏んでいて、芝居小屋は否定している。このため、芝居小屋はだいたい昭和40年前後に次々と閉鎖となり、聞こえの良い社会教育施設に乗った施設が次々できたということである。

で、自治体規模と文化施設の規模は比例すると言われ、愛媛県は概ねそれに従って勘違いしている。松山市民会館は2,000人とあるけれど、実際に座れるのは1,800人くらい。ところが、他県の創造型文化施設、積極的にいろんな自主事業をしたり社会育成したりしている所は、意外と小さい。県立静岡芸術劇場で400席、兵庫県立尼崎青少年創造劇場「ピッコロシアター」が400席、山口県民芸術文化ホールながと「ルネッサながと」が500席となっている。ルネッサながとは近松門左衛門伝説がある町なので、芝居小屋風になっており、花道が付いている。いずれも客席が舞台に近いのが特長である。

(業者2) 文化ホールのイメージを持っていただくために、急ぎ足で文化ホールに関する概論を、写真を用いて説明させていただいた。

(3) グループワーク

(業者2) それではグループワークに入る。文化ホールはどう使っていくのかということで、ホールの規模や席数、性能が変わってくる。その根本となる使われ方を中心に活発な議論をしたいと思う。今日のグループワークでは、2つのテーマを議論したい。1. 伊予市の文化ホールであなたは、何をみたい、聴きたいですか？ 2. 伊予市の文化ホールであなたがボランティアスタッフとなった場合、「何を」「誰に」みせたい・聴かせたいですか？

まず1つ目のテーマ、伊予市の文化ホールであなたは、何をみたい・聴きたいですか？ 純粹に、私は文化ホールで〇〇が見たいです。私は文化ホールで□□□を聴きたいです。そういう形でまずは自由な意見の交換をお願いしたいと思う。

(委員) グループワークについて質問である。今まで市庁舎とか図書館とかい

ろいろ学習させていただいて分かったことは、どう使われるか、何のためかということが同時進行されていないことへのもどかしさである。これはどこに言えばいいのか私には分からないが、今何かホールを見せられて、あなたは何がみたいですかという角度で入られているのだが、複合施設で考えてくれと言う言葉は出てきていない。図書館はまだ本があるから救われるけど、文化ホールはいわゆる箱物と良く言われる。だからこそ中で何が行われなといけないうか、どんな運営をしないといけないうか、どんな事業計画を立てないといけないうかということ的前提として話し合わなければいけない。その場を抜きにして、みたいか聴きたいかという終わり方になっているのが、とても怖く感じてしまう。それから、古くなったから建替えるという以外に、今まで市民会館が貸し館中心で運営されていたことによる弊害がものすごくあるではないか。そういうことも考えない。「市民活動の場」という言葉が何回も出てきているのにそれもなしで、鑑賞を切り口に入っていくということにとっても疑問を思うのだが、いかがだろうか。

(徳永氏) それはわざとである。どういうことかということ、混ぜ返すようだが、愛媛県は文化ホール猛烈後進地域である。先ほど出した先進事例の爪の先の高さにも達していない、一度もこういう議論をしたことがない所である。内子は多少自分たちでいろいろやっているのですが、大変失礼な話、愛媛県松山市、伊予市、その辺に住んでいる人たちは基本的に自分たちで大規模な興行を自立的にやったことがほとんどない。放送局や新聞社、時々気まぐれに自治体が公演を受けているだけである。なので、いきなり管理運営計画だとか、ボランティアスタッフうんぬんかんぬんと言ってもピンとこない。だって鑑賞しかしたことがないのだから。だから皆さんの聴きたいものみたいものから素直に出していただいて、次回につなげて考えたいと思っている。時間が厳しいことに関しては大変申し訳ないのだが、それで進めさせていただこうと考えている。よろしいだろうか。

(委員) 実際に市内で活動している人は何百人もいる。どんな文化活動をここでしたいかというテーマはないのか。

(徳永氏) それは次回にする。

(委員) さっきの図書館でも言ったが、100年に1回あるかないかの建物を考えていくのに、運営も市民の立場で関わっていかないといけないのに、あまりにも乱暴すぎて、会を重ねるごとに非常に憤りを感じる。やはり文化ホールには市民がものすごく関わって、市民が活動していくという大前提を、どこかでやっぱり言いたいと思う。

(徳永氏) こちらが計画したことを全部種明かしされているようだが、この後に私に関わっている茅野の例を挙げて、市民に関わるということがどれだけ楽しくて、どれだけ大変で、どれだけ時間がかかるかという話をする。とりあえずの切り口として、皆さんが文化ホールと言ったときに、経験したことがある所から切り口にしてスタートさせてくださいというこちら側からのお願いである。よろしいか。

(業者 1) 委員のおっしゃることももっともである。私どももこのスケジュールの中でどうすればいいか非常に悩んでいる。やはりホールに行かれてない方もいらっしゃるだろう。やはりホールをどういう形からやって、どうアプローチしていくかを最初に考えたいと思う。だからある人にとっては非常にもどかしいと思う。あと数回でまとめるのは非常に大変だと分かってはいるけれど、今回は問題点を出していきたいということで徳永さんにもお願いしている。それで、最終的な目的については、次回辺りに話すべきだと思っている。だんだん種明かしをするようなワークショップであるが、そういうことを了解いただきたい。ある意味このテーマは非常にプリミティブな話なので、皆さん、何かしらのご意見をお持ちだと思う。それを一つ手がかりにするということでご了解いただきたいと思う。

(業者 2) このテーマの主旨は、どこに建ててもいい文化ホールではなく、伊予市に建てる文化ホールということで、伊予市ではどんな使い方がより潜在的にあるのか。例えば先日も伊予高校の吹奏楽が強いということを見聞で見た。そういう潜在的な需要があるのだろうなと感じている。そういうところから伊予市の文化ホール、そして複合施設を考えていくヒントになるのではないかと我々は思っている。取っ掛かりやすいと言えば取っ掛かりやすいけれど、考え出すと難しいテーマでもある。

(会長) 今回のグループワークでは、文化ホール機能として、そこでどんなことをやってほしいのか、あるいは自分も参加したいのかということいろいろ書いていただいて結構だ。

(業者 2) それでは職員の方々、各テーブルに就いていただき、進行をお願いしたい。10分から15分の時間を使って議論していただき、意見を集約したいと思う。

テーマ 1：伊予市の文化ホールで、あなたは何をみたい、聴きたいですか？

3 班の意見（意見の発表順、グルーピングは各班の判断による。以下同じ。）

有名人の講演をお願いします。客席が満員になるような人。

見たい、聴きたいだけでは、ホールとしてつまらない。

娯楽芸能（漫談、漫才、マジックショーなど）
歌謡コンサート、ジャズバンドなど音楽関係
他講演会
講演など
カラオケ大会など
素人（子どもたち、学生・一般）の歌、演奏、踊りの発表
プロの歌、演奏、踊り
著名人の講演
伊予市の行事が、文化ホールが新しくなって変わっていくだろうか。
誰もが安心して来場できる駐車場があるホール

（委員）ほかでもないのだが、文化ホールの使用料がいくらくらいかかるのか。

新しくなった場合、だいたい一般の方はどれくらいで使用が可能なのか
教えていただきたい。

（徳永氏）いきなり管理運営の根幹から言われた。これこそ次回にプランを出
したいと思う。あくまで一般論である。長く続けられる文化ホールは使
用料が高い。先ほど紹介したホールでは市民の軽減はない。茅野も軽減
はしていない。たくさん使っていただいて、技術系スタッフをちゃんと
プロで雇っている所の方が、稼働率は高く長続きする方向にある。ただ、
それが伊予市にふさわしい方向かどうかはそれこそ議論してほしい。

2 班の意見

カラオケ大会
歌を聞く
講演を聞く
音楽（オーケストラ）を聞く
漫才を見たい
文化協会等の主催による催し物
伊予市の学校の子どもの合唱や合奏を聴きたい。
有名な音楽家の歌を聴きたい。
お芝居を見たい。
市民の参加するイベント
伊予市の伝統芸能、獅子舞など
マジックや落語、ミュージカルを見たい。
吹奏楽、オーケストラを聴きたい。

(徳永氏) 音楽と芝居、両方やるのに適したホールは意外とない。さっき言った音響可変で考えるのか、いろんな手を打つことも考えないといけない。両方に適したホールが造りやすいかという、造りやすくない。音楽に適したホール、芝居に適したホール、いずれ考えるべきだと思う。

1 班の意見

一流（プロ）の音楽を聞きたい。

アマチュアや学生のコンサートを聞きたい。

映画

練習室、リハーサル室を利用したい。

（音楽、演劇、ダンス、伝統芸能、演芸、映像、絵画等）の（鑑賞したい、発表したい、交流したい、育成をしてほしい、学習したい、創造過程を見たい、ワークショップに参加したい。）

オーケストラ演奏が聴きたいです。

落語を見てみたい。

一流でなくても能等も観たいと思っている。能の勉強したいので。

ピアノ、バイオリン等のコンペ（コンペティション）が見たいです。

バレエ演目を見てみたい。

地域民俗芸能の発表など

多目的に使えるホール。防音、音響、照明のきちんとできた施設がまずいる。

(徳永氏) もう次の話に入っている。ここでの鑑賞は日常的なものか特別なものか。カラオケは比較的日常的である。それに対して有名人の質の高いコンサートは特別なものである。大切だと思ったのは、すごく高いチケットの特別なものをやるのか、それとも日常的に安価なものをやるのか。それから伝統的なことと、創造・コンテンポラリーという話。この辺は鑑賞のジャンルを飛び越えるので、次回にでもじっくり考えたい。人材育成とかコンペの場、先ほどバレエの話も出たが、ひよっとするとこの文化施設を造ること自体が、ある種のコンペの場でもある。

テーマ1のキーワード

- ・有名人
- ・市民自ら
- ・子どもたち
- ・音楽－芝居
- ・日常的－特別
- ・高価－安価
- ・伝統－コンテンポラリー
- ・創造
- ・人材育成
- ・コンペ

(徳永氏) 今の話を踏まえて、次のテーマに行く。あなたがボランティアスタッフになった場合、何を誰にみせたい、聴かせたいか。既に踏み込んだ意見もあるので重ねて出していただいてもいいのだが、できればもう一歩進めたアイデア…例えば非常に質の高い演劇を子どもたちに見せたいとか、そういう夢に近いようなことを語っていただけるだろうか。

テーマ2：伊予市の文化ホールで、あなたが、ボランティアスタッフとなった場合、「何を」「誰に」みせたい、聴かせたいですか？

2 班の意見

プロスポーツ選手、オリンピック選手を子どもたちに見せたい。
各専門分野で活躍されている方を子どもたちに聴かせたい。
市長パネルディスカッション（文化ホールを造ること。）
本物の音楽や芝居などを子どもたちに聴かせたりみせたりしたい。
地域の子供たちががんばる姿を、地域の人たちに見てもらいたい。
市民が満足できる催し物

(徳永氏) 子どもたちというキーワードがたくさん出てきた。市長というのは面白い。市長が熱心なホールは熱心である。ついでに言ってしまうと、熱心な市長が変わった時が大変だ。大体熱心な市長のときに文化施設ができるのだが、反対派の市長になったら解体しろと言われる。予算 0 という生易しいことではなく、用途変更しろと言われる。そんな実例をたくさん知っている。そこからは皆さんの腕の見せ所である。半分冗談だが半分本気である。

1 班の意見

音響の優れたホール、質の高い音楽を市民（みんな）に聴かせたい。
プロのコンサートをしたい。（誰でも良い、音響のしっかりしたもの）
映画、家庭では再現できないシアターサウンドで楽しめるもの
子どもたちに、良い映画（ためになるもの）を見せたい。
文化活動をしている人に、

- その活動の相談に乗る。
- その活動の練習スペースを確保する。
- 倉庫、ロッカースペース等も含め、定期的利用者のための支援をする。
- 発表の機会を提供する。

そこのスタッフであれば、活動をしている人と集客方法を一緒に考える。
小規模の空間を生かしたなまのアートに触れる企画をあなたに届けたい。

➤ 例：子どもの感性を磨く企画（一流のアート鑑賞⇒子どもの心と感性を自ら創造していく支援・育成⇒発表）

市民の皆さんに、教養を高め、幸せな気分になってほしいため、一流の音楽など聴くこと

（徳永氏）先ほど市民と市長という話が出た。出会いの場という点でいうと、文化ホールがないと出会いはできないので必要だということと、それから「あなた」というのは、顔が見えるということである。人口3万8千人の街なのでリピーターがすごく大切である。きっちり来てくださる方が、友達を連れて来るとか、お子さんを連れて来るとか、仲間を増やさないチケットは売れない。特に有名人以外のものは人が集まらないので、何を見せるにしても人を集めないといけない。あと落語や映画は比較的市民が興行しやすい。若手の落語家さんはギャラが安いので。なので、市民自らの文化をするには、そういうことから取り組みやすい。

3 班の意見

著名人の公演を、広く一般の人に聞いてもらいたい。

踊り、ダンス、ピアノ、バイオリン等専門性の強いパフォーマンスを子どもたちに見せたい、聞かせたい。

伝統芸能（神楽など）の指定芸能の定期開演を老若男女に。

学校音楽コンクールや吹奏楽を学校・生徒・保護者に聴かせたい。

併設施設として、産地の品を使ったカフェを設けて、市民に楽しんでもらう。（軽食、喫茶、ハモ料理、みかんジュース）

各団体での行事などに、気楽に使えるホールでありたい。

市民団体が安心して利用できる料金設定にしてください。

現在の市民会館はほとんど空いているみたいなので、少し安くして、一般の人たちにも気楽に貸し出しする方向性に。

（徳永氏）私が先ほどミスリードして、ホールを長く続けるためにはお金をいだけないといけないと言ったのだが、それは後で考えることにする。

私は大学を11年くらい務めた。その時に伊予高校出身者がいてブラスバンドがどれだけすごいかは生で聞かされた。聞きに来いと言われたので行った。伊予高校自体は隣町だけど、すごいレベルである。全然レベルは違うけれど、伝統芸能も地産地消も言えば地域の文化資源である。地域の文化資源を一般市民にも広めればいいのか…とまとめておく。

テーマ2のキーワード

誰に	・子供、市民、市長（⇒出会い）	・誰でも
	・定期利用者に（支援）	・「あなた」一顔が見える
何を	・地域の文化資源	・ブラスバンド、伝統芸能、カフェ
	・有名人、市民自ら	} 集客
	・音楽業（プロ）	
	・映画	

（4）その他

（業者2）それでは資料「茅野市民館のつくりかた」を基に、次回に続く説明と
いうか、文化ホールをもう少し深く考える上でのヒントに移りたい。

（徳永氏）大変詰め込みと駆け足で申し訳ないのだが、先ほど委員からボラン
ティアとして関わっていただく場合という話も出た。手前みそである
が、私が関わった一つの運営モデルとして茅野市民館の話をさせていた
だけ。先ほども紹介したが、2005年10月に開館した。私は2005年1月
からコアアドバイザーという立場で関わっている。ここは、芸術監督も
館長もない。茅野市が100%出資している株式会社地域文化創造という
会社が運営しており、社長が市長なので、現場責任者は専務となっている。
今の専務は、帝国劇場や青山スパイラルホール、世田谷パブリック
シアターなどで活躍してきた照明のプロである。また、この複合施設は
美術館も含んでいるので、私は美術館のコアアドバイザーもしている。
年間総予算1億4千万円（人件費を含む。）。学芸員が専任で2人、ホー
ルスタッフが常時12人、加えて嘱託職員が6人程度と非常に少ない人員
でやっている。それで少ないの？と言われそうだが、可児市の文化創造
ホールは30人のスタッフがいる。ここはホールだけだと約10人なので
すごく少ない。事業予算はホールのみで700万円前後で、先ほどから盛
んに出ている人材育成や子どもたちのための事業、ボランティアスタッ
プの研修費用（100～200万円/年）の費用は極力別の補助金を獲得してや
っている。ボランティアスタッフも雇っただけ、ボランティアになっただ
けでは何も機能しない。ちゃんとリーダーが必要であり、いろんな人
を呼ぶ研修にはものすごくお金がいる。今後伊予市で考える場合にすご
く大切なことである。

建設の経緯としては、伊予市と同じく古い市民会館が駅前にあった。
茅野市の最低気温は氷点下12～13度、かつては氷点下17～18度という
気候で、雪が降り込むような寒いホールだったそうだ。それで伊予市と
同じように市民活動が非常に盛んな所だったので、合唱の人たちや演劇

鑑賞の人たちから新しいホールを造れという声が上がっていた。その時、前市長が市民に対して、「お前らそんなに新しいホールが欲しいのなら、お前ら責任を取れ」という強烈なキャッチボールをやった。お前らが責任を取るなら計画に乗せて考えると市長自らおっしゃった。それで97年頃から市民がわあわあ言って8年かけて作った。

(詳細は <http://www.city.chino.lg.jp/ctg/01060172/01060172.html>)

私が関わり始めた2005年1月には建物ができつつある頃で、契約としては季節ごとの年4回くらいと思っていたら、わずか4か月で3回行くことになった。しかも長野県はどここの町でもそうなのだが、みんな強烈にモノを言うので、毎回会議がものすごく紛糾した。しかも働いている人全員が出られる時間帯に会議をやれということで、7時半から会議をやり、市長も付き合った。忘れもしないが、最初の本格的な会議の時、終わったのは午前1時半だった。スタッフや参加者はさらに24時間営業のファミレスで会議を4時くらいまで続け、ひと眠りして翌日仕事というのが続いたようだ。例えば文化ホールという言葉一つでも意味を探しながら、他のホール事例も参考にしながら決めていった。客席の傾斜についてもワークショップで決めた。設計者は芝居小屋を想定していて、内子座でもそうだが、客席はほとんど傾斜がない。それで前に座っている人の頭をかわして見る雰囲気であろうと一度は市民が納得した。いざやってみると、市民劇をやると前が見えないのでやり直しになった。そのため客席数が減った。そういう繰り返しを徹底して、設計者と約100回のワークショップを毎週毎週夜中までやったようだ。そこがある意味愛媛県の皆さんと違う所である。ちなみに市民と専門のスタッフの間も最初はものすごく悪かった。市民の皆さんも勉強されたので、自分たちにもホールくらいは使えると思っている方がいらして、プロの人たちとやり取りがうまく成立しない時期があった。

ホールの大きさを決めるときには、皆さんと議論したような話が出た。具体的にはNHKののど自慢がやれるホールがいいという人たちがいて、NHKの基準だと、のど自慢は原則1,000席以上と書いてある。それに合わせて1,000席以上のホールを造った町がいっぱいある。実際にそれでのど自慢が来たら市長や担当者はそれで良かったねで終わるが、後は大変である。1,000は広い。茅野の場合もやり取りがあった。未だにもっと大きなホールがあったら良かった、とおっしゃる方もいらっしゃる。ただ確実に1,000人入るという状態を作らないと、なかなかNHKは呼べない。最初はやはり市民が強烈にのど自慢をみたいとおっしゃられていたが、結果実現しないということがあった。実は規模を小さくすればするほど

ペイしない。大きなホールを造れば造るほど、大きなものを行った時に、お客さんが“入れば”ペイする。今松山ではチケットはちっとも売れない。大体 10 年前の 7 割、20 年前の半分である。マネジメント会社が潰れかけている状況である。

で図書館と複合、併設となったら、できるだけ有事的にする。茅野の場合は図書室に芸術文化関係の本をまとめて置いてもらっている。ある講演をやる時には、その関連の本を買っている。

そういうことで、徹底した市民との協働は、基本構想を創り上げるところから、公開プロポーザルで設計者を選び、理想の市民館を専門家とともに設計するまで、市民主導で検討を行った。選定前からすると 140 回ワークショップをやったということである。ここは徹底して貸し館をやる。一般的に新しいホールを造った場合、貸し館会場にしかないと批判されるのだが、ここは貸し館を徹底している。貸し館をやることによって収入を上げる。その収入を上げることによって新しいイベントができるお金を確保している。ただ皆さんがイメージする貸し館とは全然違う。例えば文化協会で音楽会やる場合には、まず事前申請の時に何が必要か徹底的に専門（技術・音響）のスタッフと議論する。周りのホールの窓口で、「はい、この日空いてますよ、どうぞ」という、音響さんや技術さんを外注しないといけないホールより、こっちの貸し館率が高い。使い勝手が良いから。貸し館も自分たちの自主事業だという認識でスタッフはやっている。自主事業に関するサポートは、サポート C という NPO 法人が必ず関わっている。月に 1 回事業企画会議があり、そこでサポートのメンバーと我々スタッフが会議をする。それで、事業企画を決めていく。全てのことは、そこが必ず上げるというシステムを取っている。私がコラムガイドをした時、こんな施設で自分がやりたいことが実現できて良いですね、と言われたが、私は絶対にやりたいことは言わない。あくまでもサポートの役割だけである。で、この際の肝は、市民が責任を取ってくれる。これは市長との約束で、NPO 法人にしてくれと私はお願ひした。法人格を持っていないと、任意団体に市長がお金を渡して事業はできない。ここの設計者は古谷（誠章）先生がやられ、建築学会賞を頂いたのだが、運営込みで建築学会賞を取った。運営面では一昨年芸術院賞も頂いた。それくらいの形で運営しているのでしんどい。徹底的に議論をするから意思決定は遅い。市役所もしんどい。だからお互いにどれだけ腹の底にぐっと沈めて責任取るか。

ただ茅野市でも実は問題化していることがあって、やはりこういう組織を作るとそのまま高齢化していく。最初に会を作ってから 10 年も経つ

と新陳代謝が難しい。だから最近はずっとサポート C じゃなくていい、茅野がもっとうまくやれる若い人たちが出てくれば良いねという話をしている。そこで、昨年からステージづくり運営員という、人材育成の講座を始めた。今のスタッフと一緒に、参加者自らが主催者になって、自らが法的責任、経済的責任を負いながらステージをつくるという講座を助成金もらってやっている。その報告は次回にさせていただく。

(業者 1) 今回非常にプリミティブなテーマで議論していただいたことでフラストレーションのある方もあると思う。非常に回数が少ないので、我々もどうやってまとめようかと、この会議の前にも市役所と協議した。当初の複合化の問題がずっと残ったまま進んでいるのだが、次回はっきりと形として出したいと市に申し入れている。市長の発言では 5 つの機能があった。この 5 つ入るのかという話である。今回の文化ホールの目的として、前回の図書館と同様、2 回のワークショップでは全然収まらない話ではあるのだが、やはり方向性としてこの敷地はもう決まっているので、何の施設が入るのかということは、きちっと話していただきたいと思っている。実は図書館にもいろんな問題がある。ホールにしても、有名な演奏家が来て、使う場合には料金が安ければいいということではないと、先ほど徳永さんの話にもあった。非常に大きな難しい問題がある。はっきり言って茅野が 100 回やったことを 4 回でできるとは到底思っていない。ただし、そういう問題があるということを知っていた上で、なおかつ、ここの敷地の中で複合化の最終的な方向性を出したいということで、ご了解いただき、また次回にお話させていただきたいと思う。

(会長) 今石本事務所から、次へ進むためには階段を 2、3 歩上がらないといけないとあった。次回ないし次々回までには方向性を含めて話ができたらと思う。我々に与えられた任務は、0 からの出発ではなかなかできない。場所は与えられている。いくつかの機能について残さざるを得ないものについては、全体のワークショップでも議論が出たので、そのことも含めてお話させていただくことを私も願っている。なかなか難しいが市にもいろいろお願いしたいと思う。前は図書館だったが、今日は文化ホールについてまたいろいろご意見をいただいた。まだまだたくさん課題はあるけれど、本当に限られた時間の中で、一定出せる結論という範囲で、皆さんとがんばっていききたいと思う。

(委員) 石本設計事務所に訊ねたい。最初に会長が言われたのは、時間がないから流れだけでも作ろうという話だった。今日の先生の勉強も時間がある時ならいいのだが、時間がないのに次もまたこれをやるというのが私には分からない。ある議員から聞くのに、ある程度してまとまらなかつ

たら、その後は会議に出ている委員も入ってワークショップをやってもらうと良いという話が出ているらしい。僕が心配なのは、ただお茶を濁して結論が出なかったけどいいかと終わることだ。もう3回しか時間がないのに今日の話なんかしていたら...時間があるときは今のやり方で進めれば答えは出やすいのだろうが、お茶を濁すためにしているのか。

(業者1) そういう話が出てくるだろうと思った。ただ今いろんな利害関係の代表が出てきている。茅野のように、非常に意識のある公募の方がワークショップを何十回と重ねて結論を出すのではなく、まっさらな状態で議論をして、何回かでまとめるのなら、こちらからある絵を出して、それが賛成か反対かというやり方しかない。ただ最初に話したとおりのやり方は取っていない。こちらとしては、レベルも違う、理解も違う、いろんな方がいる中で、こちらが押しつけるやり方はできないという判断をしている。複合化で一番気になるのは、この敷地に何が入るのかということだ。やっぱり市の方針がはっきり決まっていないということが一番にある。その前提となる話はやはり、皆さんで議論していただく方が良いのではないかと考えている。だから、先ほど会長がおっしゃったように、次回辺りからステップは上がってくる。かなり無理なジャンプアップになるかもしれない。ただし、それを前提にしないと、いきなり何席のホールでやります、意見に出た芝居やります、バレエやります、有名人、オーケストラやります、そんなホールの設計はできない。そこにベースがないと、こちら側で全部を押しつける話にはできない。

最初から細かい日影規制のことなど話されたけれど、そういう絵を出すという形から入ることはやっていない。やはり皆さんが例えば文化施設は何に向かっていくのか、ということを出していただくことが大事だと思っている。そこら辺でフラストレーションが溜まっているのは分かるのだが、多少ご了解いただきたい。

(委員) そのために石本設計がおいでる訳だろう。そして、そのために最初から審議会に出ているわけだ。どう進めるかについては、会長も細かいことはやめましようと言ってくれた。前みたいに重箱の隅をつくようなことは止めましようと言われたのだから、後は大きな流れをしないといけなただけだ。それを皆さんに言っても土地の面積やどれだけのものが建つかなんか分からない。まずそういうものを出さないと、我々委員は何にも分からない。そのために石本設計はいる。今の土地に建つか建たないかという話。この委員はみんなそれも分からずに中のソフトばかり話している。与えられた時間しかないのだから、ソフトの話ばかりしていても仕方がない。でも石本建築事務所がやっていることは逆行し

ている。要するに良い話をしてくれている訳だろう。それはみんな良いものが良い。だから今の話が出てくると良いものばかり造れという話になる。音響施設が良いとか何かしらが良いとか、でも実際には建たないだろう。私は自分らで研究してきたからこれだけの大きなものは全部入らないというのは分かっている。だから逆にその資料を出してこないといけない。

(業者1) そういう意味で言うと、3回やったワークショップは前提である。何といってもハードから入るといふやり方はしていない。だけど、今おっしゃったような物理的にどうかという話はやる。やるのだが、それを前提にするという議論のやり方はしていない。

(委員) 最終的にまとまらないなら審議会はいらない。議員が言われたのだが、今後もワークショップで行く予定をしている。気の毒だが私はいつも情報が先に入ってくる。前の文化ホールが寿楽座になるという話もそうだ。だからみんな一生懸命来て議論しているのが、してもしなくても変わらないのなら意味がない。3回でもあるのなら、方向性だけでも作りたい。

(会長) いろいろと意見があるのは存じ上げている。何よりも市が明確な形で問題を提起したということでもない。そもそもの出発点は、文化ホールの場所問題をやるはずではなかった。私もそれはここで言い出したらキリがないので、市に一度返して休会とした。結果的に大分時間を取られて、場所についてはいろいろお考えがあった上でこの場所になった。そうすると、当初からはずい分と複雑になり、重い課題を背負わざるを得なくなった。一般的には、綺麗な絵が出てきていて、それについてどこが良い悪いを審議するというのが、おそらく我々のレベルだったと思う。投げ出す方向もあったかもしれないが、まあ継続ということで議論していきましょうと。で、ワークショップも含めていろいろ議論してきた。議員の話の主旨は良く分からないけれど、議員の所で議論してもらうなら議論してもらっても良いが、ここと同じ議論では困る。

我々自身はおっしゃるように、一定結論に近いものを出したいと思っている。それは1つの絵で済むのか、2つ、3つの絵になるのか。できたらある1つを提示して、そこから出発してもらうのもありかなと思う。ただそのためには、もっと条件を整備しないといけないということであり、それについては市に申し上げている。どこまで条件が整備されて出てくるかは分からない。ただし例えば文化ホールについても、ソフトとおっしゃったけれど、実は機能である。ハード分については確かに伝えてないかもしれないが、機能については、前回もそうだが、皆さんの中で共通認識を持つようにしている。図書館は今の状態では駄目だと、新

しく変えないといけないということはお分かりいただいていると思う。文化ホールについてもどういう考え方があるかは分かった。今後どういう集約化を求めるか、みんなが合意形成するのか、それともそれは知らない、席数だけ決めようというのならそうかもしれない。そこはちょっと枠を飛び出して、少し細かい所まで行けたらいいのだが、ある程度までは考えざるを得ない。この会を見ていると、いつまでも結論を出さないのが皆さんお好きなのかなと思ったのだが、そうではなくて、良いか悪いかは別として一回結論を出してみても、それで考えてみる方法があり得るのではないか。ただし、市がどこまで条件整備をできるのかがポイントになる。複合施設としての機能をどこまできちっと整備できるのか。あくまでこの場所でできそうなもの、いくつかの条件は出てくるかもしれない。そういう形であと3回しかないけれど、3回の中で案を作らざるを得ないと思っている。そうでないとここで中途半端に終わると、次もなかなか難しい。皆さんは市民代表としてご参加いただいているわけだが、気分的にはしんどいと思う。私は松山市民だから、議論したことについて、一定責任を持つということではないかもしれないが、やはり審議会のメンバーとしていろいろ議論している。その中である一定の結論はみんなでしよう。ひょっとしてずんずん進んでいいたときには、それこそソフトの話が本気なのかという事も出てくる。いろいろ言われている方々が本気なのかということだ。本気とは本当に大変だ。そのことも含めて、みんな背負っていかないといけない。それは会を重ねるごとに重くなる。松山市の衛星都市として上手にできればいいが、ひょっとすると、近いとはいえ自立的にやっていかないといけないとなると大変である。そのことを噛み締めながら、共通で合意形成できるところがあるのならそこでまとめて答申したいと思っている。ただし、難しい場合は附帯事項がいっぱい付いた願望的なものになるかもしれない。あまり非現実的な形にならない方が私は良いと思う。それは私自身、いろんな計画に携わってきた者としての考えである。

(委員) 決してお茶を濁してという気持ちでみんな来られてないし、委員は当初から今に至るまで、それなりに学習もしている。大きなことばかりは考えていない。とても冷静に考えられている方が多いように思う。ここでは建設のことを話しているけれど、やはりこの事業を担当する部署として、建設とは別にやる気がある市役所の職員を中心にした事業担当の部署もいるのではないかと思ってきた。建設というのはただの一面でしかなくて、それが使われてこそそのものを私たちは今考え合っているという所に、戻ってみるのもいいと思う。

(徳永氏) ちなみに茅野市の場合は、「市民とのパートナーシップ課」という課があり、市役所の中で一番偉い課である。そこが文化施設を担当している。ただここは国宝を持っており、尖石縄文考古館という博物館は教育委員会の管理なので、微妙な対立はある。美術館が市民とのパートナーシップ課、博物館が教育委員会ということに関して、微妙な違和感がお互いにある。それを取っ払うべくプロジェクトをやって、少しは仲良くなったけれど、最初のうちはほぼ敵対感があった。だからその辺りのことは、ぜひ市に考えていただきたい。課が違っていても、使う側の市民からするとどうでもいいことなので、そこのバランスをうまく取ってもらおうようお願いする。

(会長) すでに時間をオーバーしている。今日はこれくらいで良いか。来週まではひよっとするとこういうスタイルかもしれないが、ちょっとお付き合いいただき、12月は師走で私もほかの皆さんも忙しいかもしれないが、一応出口が見付けられるよう調整してみたいと思う。今日はこれでお開きにしたい。

(事務局) 事務局から今後の日程についてお知らせする。次回は11月22日(木)の午後2時から、この市民会館の4階で開催する。その後の日程については、12月5日(水)と12月19日(水)を予定している。これについては、変更もあり得るので、確定次第正式にお知らせをする。

(16:15 終了)